

(1)発表資料の状況設定

研究室の個別訪問。機関リポジトリにぜひ登録したいとこちらが思う論文を書かれた先生（以下 A）と、忙しいのに研究業績などの登録業務が増えて不満を持っておられる先生（以下 B）の、2つのケースを想定した。

(2)発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

(A)機関リポジトリは、本学で生み出された学術情報をサーバに保存してインターネットを通じて広めるシステムである。研究業績データベースと同様に大学の事業であり、機関リポジトリ用に提出されたコンテンツは、同時に業績データベースにも登録される。また、掲載ジャーナルを購読していない環境にいる人にも読んでもらえるといったメリットがある。

(B)研究業績データベースに登録する代わりにデータそのものを提出されれば、同データベースへの登録をこちらで行ない、データそのものを機関リポジトリに保存する。データベースへの入力作業が不要となり、内容はインターネットを通じて多くの人に読んでもらえる。

- ・個別訪問なので **Power Point** を用いず、手描きの紙芝居のようなものを示しつつ説明する方法とした。これについて、評価をいただいた。
- ・A のケースで、研究者が論文の登録を承諾してくれた後にメリットをいくつも挙げたことについて、不要とのコメントをいただいた。その部分を削除した。
- ・持参した **USB** メモリにコンテンツをいただくかメール添付で送付をという提示をしたところ、研究者の元に **CD-R** を置いてくるという方法も教えていただいた。

(3)リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

[1] 8月28日。附属図書館内。発表者2名。対象、本学研究業績データベース担当の先生および図書館員等。7名。前項(2)の助言を受けて修正した内容を発表した。

[2]9月14日。附属図書館内。発表者2名。対象、前述のAに当たる先生。1名。

(4)リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

前項[1]について。コンテンツを提供してほしい研究者に対して、メリットを箇条書きにして渡したり、どのようなものかわかるように自館や他大学などの画面サンプルを見せたりするとよい、などの助言があった。また、出版社版でない場合はページ数標記が無く引用に使用できないので、書誌情報を明示するカバーページが必要という意見もあった。

同[2]について。登録や共著者への連絡については、快く同意していただいた。「著者最終稿」をわかりやすく説明できなかったが、他大学の事例をご紹介したところ理解され、すぐにメール添付でそれを送ってくださった。

(5)その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

上記でお預かりした「著者最終稿」は掲載禁止期間中なので、それを過ぎたらぜひ登録したい。

本学リポジトリでは、コンテンツ数を増やすことよりも、登録したいと考える学内の研究者、学外から問い合わせの多いコンテンツを探し出し、ニーズに応えるように努めたい。

研修でのプレゼンテーションにおいては、講師の先生方に研究者役をご依頼したところ、突然の申し出にもかかわらず快くお引き受けくださいました。研究者役の先生方を含め、多くの先生方からご助言を頂戴しましたこと、また、3日間充実したカリキュラムを受講させていただきましたことに感謝申し上げます。